

## 大臣級会合における増原副大臣 歓迎挨拶（和文）

（第9回アジア原子力フォーラム大臣級会合 平成20年11月28日）

### （冒頭：歓迎の辞）

第9回アジア原子力協力フォーラム大臣級会合の開会に当たりまして、本会合の主催者の一人として、また、日本国政府で原子力の研究、開発及び利用を含む科学技術政策全般を担当する副大臣として、ご挨拶申し上げます。

初めに、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、タイ、及びベトナムからのご参加を心より歓迎いたします。

また、フィリピン政府には、今回の会合を我が国と共同で主催いただき、昨日のレセプションを始めとして、心温まる歓迎に御礼を申し上げます。

### （原子力を取り巻く情勢）

近年、地球温暖化対策とエネルギーの安定供給の確保が世界的な課題となってきています。

今後見込まれる世界的なエネルギー消費の増大は、エネルギー安定供給に対する重大なリスクであり、実効性ある対策に早急に取り組む必要があります。エネルギーの安定供給を図りつつ、2050年に向けた温室効果ガス排出量の大幅削減を実現していくためには、原子力エネルギーの平和利用が不可欠です。

本年7月のG8北海道洞爺湖サミットでも、首脳宣言において、「気候変動とエネルギー安全保障上の懸念に取り組むための手段として、原子力計画への関心を示す国が増大していることを目の当たりにしている。これらの国々は、原子力を、化石燃料への依存を減らし、したがって温室効果ガスの排出量を減少させる不可欠の手段と見なしている。」という内容を参加各国の共通認識としたところです。

### (FNCAの取組み)

FNCAは、2000年以来8年間、前身のICNCA(アジア地域原子力協力国際会議)を含めると20年近く継続しており、メンバー国の積極的なパートナーシップを通して、実用化につながる原子力技術研究開発の成果を着実にあげてきているユニークな協力枠組みであります。

この成功の要因は、各国が共通の関心を持つ放射線利用技術をテーマに選んで、実用的な(practical)研究開発協力や共同研究を実施してきたことにあると認識しております。

多国間の枠組みによる研究開発協力は、各国が保有する幅広いニーズやデータ、及びノウハウを活用できるため、一国のみによる研究開発よりも適用範囲の広い実用的な成果を追求しやすくなるという利点があります。

今後も、一層良い成果を得て、地域の発展に貢献できるように、積極的に協力を進めていくことが望まれます。

### (基盤整備への取組み)

昨年のFNCA大臣級会合で発出した共同コミュニケにも記載されているように、原子力発電はエネルギー安定供給と温室効果ガス排出削減の双方に貢献できる実用的な手段であり、FNCAメンバー国でも原子力発電の導入、拡大への動きが活発化してきています。

我が国としても、原子力発電を導入しようとする動きに対して、我が国の原子力基盤整備に関する経験及び知見、ならびに優れた安全技術を提供していくことが重要な役割と認識しています。

原子力発電を安定して行うためには、IAEAのマイルストーン文書にも示されているように、多くの技術的、社会的基盤を整備し、改良改善していかねばなりません。

本日の円卓会議のリードスピーチでも言及する予定ですが、原子力発電の導入・拡充に向けて、メンバー国間に蓄積された経験や知見を活用して基盤整備へつなげていくためのノウハウ作りがFNCAの活動として求められていると考えます。

### (結語)

本日の大臣級会合では、活発な議論が展開され、FNCAの一層の発展に資するような成果が得られることを期待します。

アジア地域の原子力利用の拡大が見込まれ、ASEANにおいても原子力が主要な課題とされる中、FNCAの活動は、これまでも増して重要となります。また、IAEAをはじめとする国際機関による活動との連携の強化も大切です。

FNCAの成果を活かした参加各国の原子力分野における活動が、参加国の社会経済の発展と国民の福祉に寄与することを祈念して私の開会挨拶といたします。

(了)